

先端技術ソリューションで台湾の発展に貢献する 日立ハイテク台湾

日立ハイテク台湾(日立先端科技股份有限公司)は、日立グループ企業である日立ハイテクの台湾現地法人である。今年は台湾で創業50周年を迎える。電子産業、半導体産業がさかんな台湾において、ナノテクノロジーや産業ソリューションを中心に事業を展開している。事業内容や今後の展望について、獅々堀兼三董事長を訪ねお話を伺った。



日立先端科技股份有限公司
獅々堀兼三董事長

一 会社設立の経緯について

日立ハイテクの台湾拠点の設立は、日立グループのエレクトロニクス専門商社であった日製産業が1970年10月に台北支店を設立したことに始まります。当時は日立グループ製品の販売が台湾進出の主な目的でした。その後2001年10月、日立製作所の半導体製造装置、医療・計測・解析装置等の事業と日製産業を統合し、日立ハイテクが設立されました。2005年9月、その現地法人として日立ハイテク台湾を設立し、現在に至っています。

台北本社に加え、顧客の拠点立地に寄り添う形で、新竹、台中、台南にそれぞれ事務所を設置しており、またデモラボ「PICT (Process Innovation Center Taiwan)」を新竹県新竹市に設立し、先端半導体技術の共同開発の場として活用しています。日立ハイテク台湾の従業員は約250人程度です。

一 台湾での事業内容について

日立グループは、グループ全体の事業戦略として、お客様の社会価値、環境価値、経済価値の向上と人々のQoL(クオリティオブライフ)向上を目的とするソリューションの提供を掲げています。日立ハイテクは、ライフ・ソリューション事業ユニットに

属しており、主に半導体製造・評価解析装置を中心としたナノテクノロジー・ソリューション、医療・バイオ分野での検査・分析装置等のアナリティカル・ソリューション、電子部材調達等の商社機能や事業開発を中心としたインダストリアル・ソリューションの各事業を展開しています。台湾では、半導体製造装置や評価解析装置の販売・サービスを行うナノテクノロジー分野と、電子部材、産業装置等の販売やIoTソリューションサービスを行うインダストリアル分野が主な営業内容となっています。

また、日立ハイテクは「ハイテクプロセスをシンプルに」を企業ビジョンに掲げています。今後とも技術難易度が大きく上がり、複雑度を増していく半導体工程をはじめ、「加工する、見る・測る・分析する」といった日立ハイテクのコア技術を通じて、お客様のプロセスをシンプルにすることにより、ムダの削減と生産性最大化を実現し、顧客の発展に貢献していくというものです。特に半導体製造工程等では、簡素化を図れる余地が多くあります。装置提供のみならず、先端技術を織り込んだソリューションを提供することで顧客の発展、ひいては台湾の発展、そして世界中の人々のQoL向上へ貢献を図っていきたいと考えています。

台湾の特長はフットワークの速さであり、顧客対応はもちろん、台湾パートナー企業からも対応の素早さ、チャレンジ精神

日本企業から見た台湾

を強く感じています。技術開発や製造・加工に関するやり取りにおいても、自らものづくりを国内で続けている台湾企業ならではの手応えを感じます。民間企業だけでなく中央政府とのやり取りでも、その目線が現場に近く、非常に身近な存在であるとの印象を持っています。

また、我々は、台湾の現地社会に根ざした社会貢献活動も行っております。日立ハイテク製の卓上型電子顕微鏡を使って、社員がボランティア活動の一環として、台湾の小・中学校や高校に出張授業などを行っています。理科学教育の支援活動を通じて地域貢献に取り組んでいこうと考えています。一昨年には新竹の高校生がこの活動を通じて日立ハイテクの卓上顕微鏡を使ったレポートで、科学展示会に参加し、優等作品賞を受賞しました。

—今後の事業について

デモラボ「PICT」へのR&D投資や事業投資を増やし、台湾顧客との共同開発を加速したいと考えています。日立ハイテクの得意分野にフォーカスして、顧客の課題解決に取り組むとともに、現地パートナー企業とのビジネス・協業を通じて新たな先端技術ソリューションを創出し、台湾の更なる発展に貢献していきたいと思えます。

デジタル社会のインフラである半導体は、今後とも微細化・高密度化により進歩していくとともに、技術難易度が上がっていきます。開発期間が長期化し、製造工程における顧客のコスト負担も増え、大きな資金投資が必要な産業です。同時に、先端技術による高機能化や効率化で、我々サプライヤーが貢献できる余地が大きい産業でもあります。日立グループの総合力を活かし、顧客の課題解決に貢献していきたいと考えています。

さらに、かねてより台湾でビジネスを展開している装置・部材の販売や保守サービス等に加えて、日立グループで展開しているLUMADA(ルマーダ)プラットフォームを活用したDXソリューション提案ビジネスにも取り組んでいきます。DXソリューション提供にあたっては台湾現地パートナーと協業し、顧客により密着したきめ細かい製造ソリューション・サービスを提供し、台湾のものづくり産業発展のお手伝いをしたい、と考えてい

ます。

台湾には、台日間の協業に積極的な企業も多く、かつ、台湾で立ち上げる事業モデルを世界市場へのプロトタイプと位置付け、台日共同で海外展開に乗り出したいというマインドの企業も多くあります。こういった台湾企業との連携も視野に入れて、ここ台湾で新たなビジネスを創造していきたいと考えています。

—ありがとうございました

日立先端科技股份有限公司の基本データ

会社名	日立先端科技股份有限公司
代表	董事長 獅々堀兼三
設立	1969年8月
資本金	6千万台湾ドル
事業内容	半導体製造・評価解析装置、電子部材、産業装置、IoTサービス等の販売及びサービス

注)2020年7月の情報による
出所)公開資料及びヒアリングよりNRI整理